

生	駒	市	
総	合	計	画

生駒の未来を伝える
ガイドブック

自分らしく輝ける
ステージ・生駒

IKOMA
CITY

生駒市がめざす姿

生駒市は大都市への通勤・通学者が多く住む「ベッドタウン」として発展してきました。

しかし、生駒市を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、市民のライフスタイルは多様化しています。日中の多くの時間を生駒市で過ごし暮らす人、生駒市で住み働く人も増えてきています。

これからは「ベッドタウン」から脱却し、多様な生き方や暮らしをかなえる機会や場、人とのつながりが豊かにあるまち（ステージ）で、主役である市民が、仲間を得て、夢をかなえ、輝く人生を送れるようまち全体が応援してくれる、そういうまちへと本市が進んでいくことを目指します。

「ベッドタウン」から 「自分らしく輝けるステージ」へ

まちづくりを進める上でのキーワード

市民主体

まちづくりの主役は市民です。様々な分野で市民が活躍できる場を整え、市民・事業者・行政の協働を進めます。

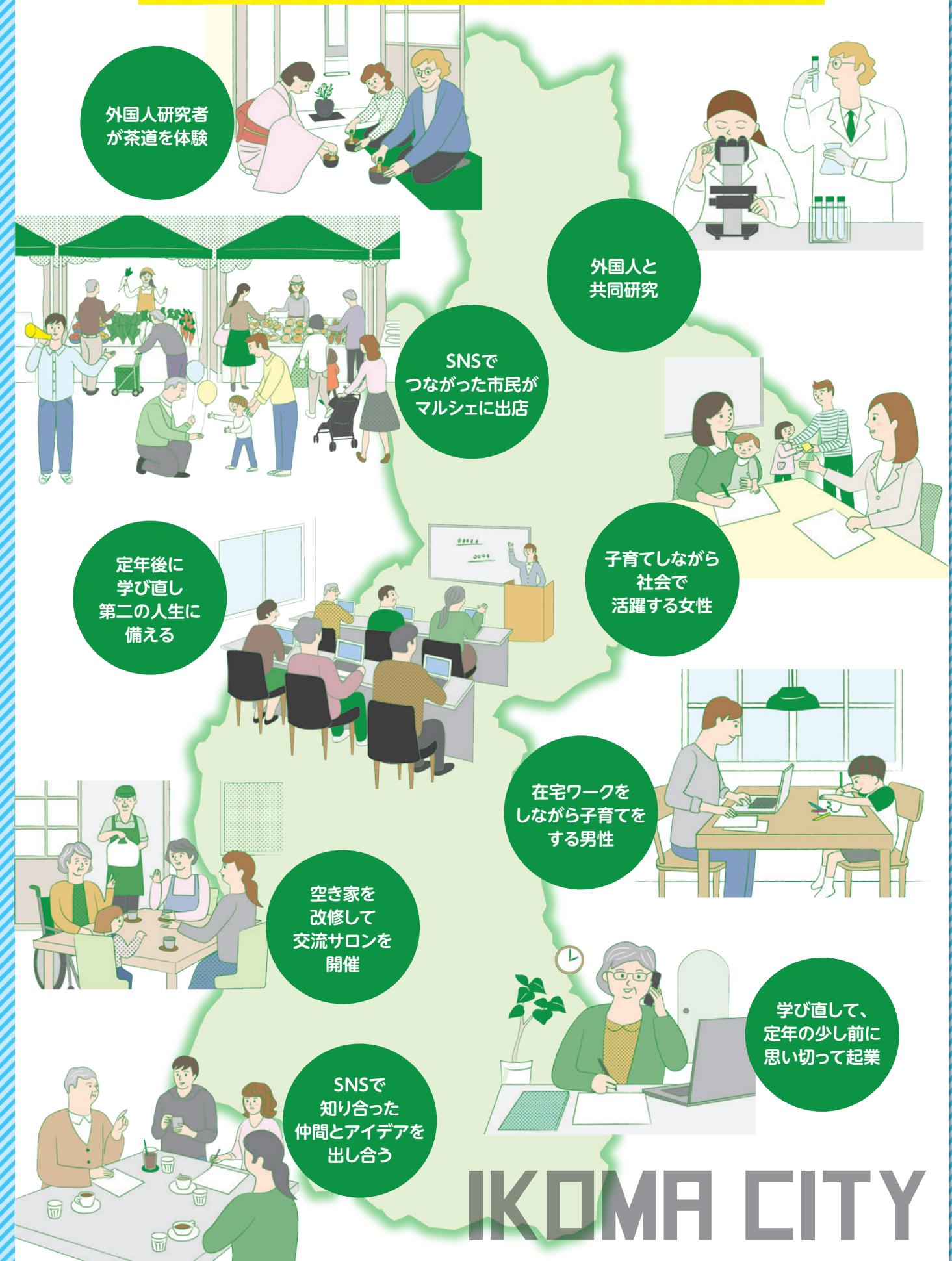
自助・共助・公助

身近な暮らしに関して、まず「自助」（自分自身が行う）、次に「共助」（周囲や地域が協力する）、そして「公助」（行政が支援し、補完する）という考え方でまちづくりを行います。

協 創

市民、NPO、事業者等の民間どうしが相互に、あるいは民間と行政など本来価値観の異なる主体が柔軟に連携することで、様々な分野の解決策を創造する「協創」のまちづくりを進めます。

未来の生駒市の姿



ライフスタイル・暮らし方の変化

生駒市の

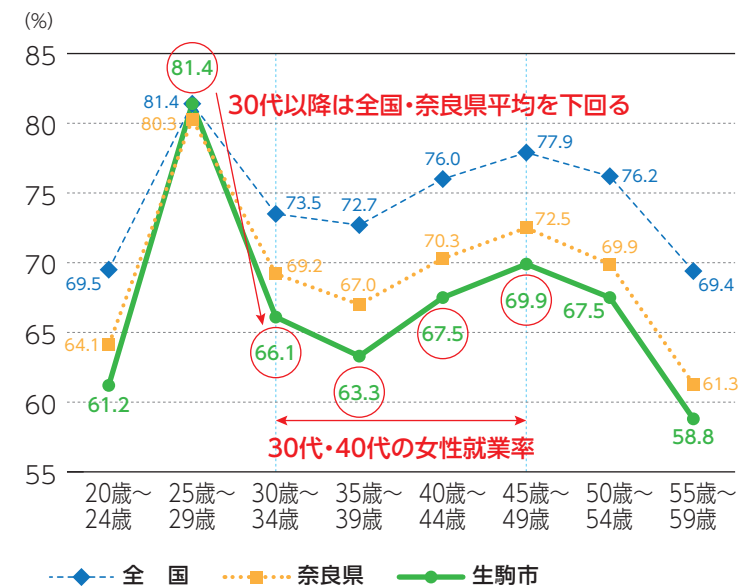
今

誕生から就学・進学・就職・結婚・育児・定年退職といった、これまで「普通」とされてきた人生の歩み方が大きく変化してきています。働きながら子育てをする女性や、定年後も社会で活躍する高齢者など様々なライフスタイルが広がりつつあります。

また、高度情報化社会の進展に伴う様々な技術の進歩により、買い物、学習、コミュニケーションといった普段の生活も大きく変化しています。

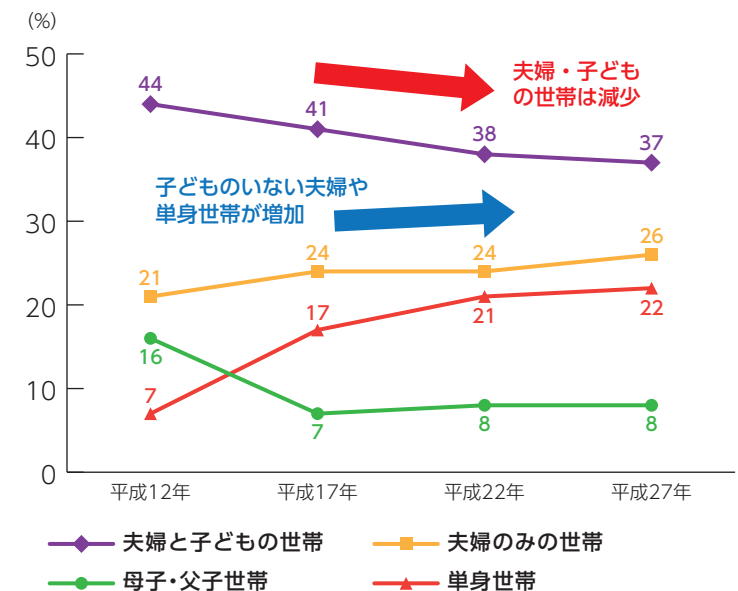
こうしたライフスタイル・暮らし方の変化を踏まえ、行政サービスの対象を柔軟に捉えて、様々な人々の暮らしに寄り添った施策を行っていきます。

生駒市の女性就業率



生駒市は全国や奈良県平均に比べ、働く女性の割合が低い状況です。今後、様々なステージで活躍する女性を増やすための子育て施策や就労支援が求められています。

生駒市の世帯構成



子どもがいない世帯や単身世帯、母子・父子世帯など多様な家族形態が増えてきています。それぞれの置かれた状況に応じた施策が求められています。

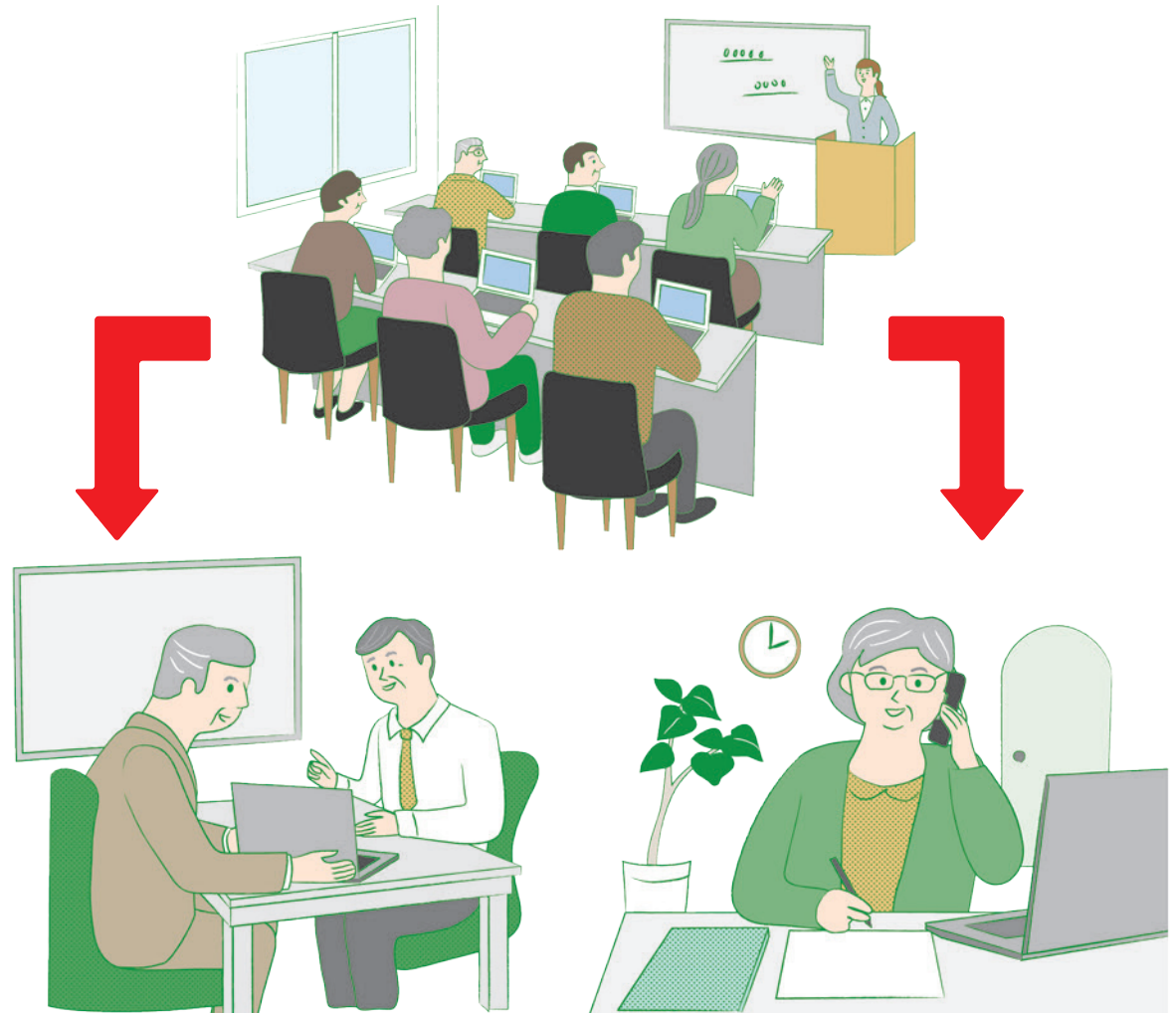
生駒市の

未来

子育てしながらでも社会で活躍する女性や、在宅ワークをしながら子育てをする男性など、子育てと働き方が多様化しています。



定年後に学び直し、働く高齢者など、様々なシーンで活躍する方々が増えていきます。



社会・コミュニティの変化

生駒市の

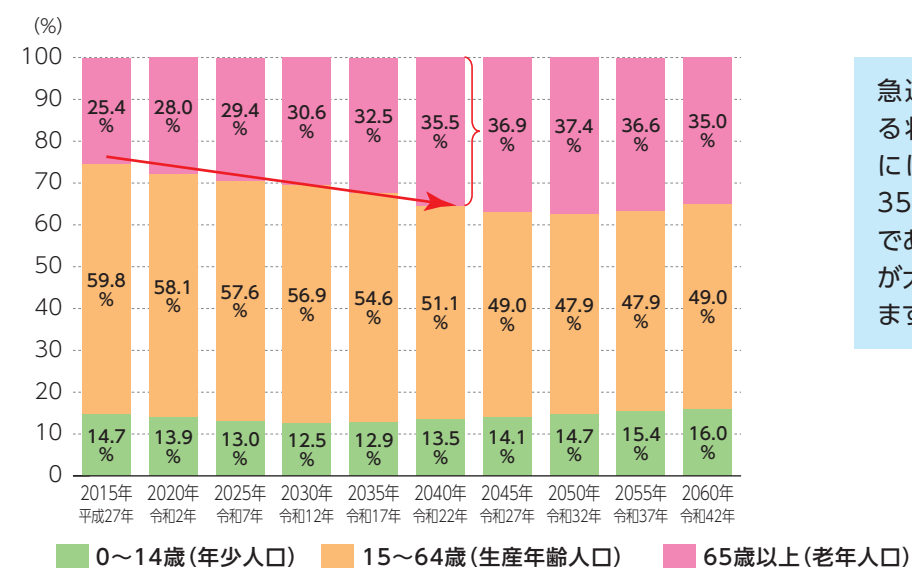
今

これまでの集団やコミュニティは家族、地域、職場によるものがほとんどでしたが、高齢化や人口減少、ライフスタイルの多様化により、コミュニティのあり方は大きく変わってきています。

例えばSNSの普及等に伴って、趣味やボランティア、副業などによる様々なつながりが、世代や空間を超えて数多く緩やかに形成されるようになりつつあります。

これまでと同じく既存のコミュニティや地域団体との協働は進めながらも、新たな「緩やかなつながり」とも、市民生活の質の向上や地域課題解決に向けて、異なるアプローチで一緒に取り組んでいきます。

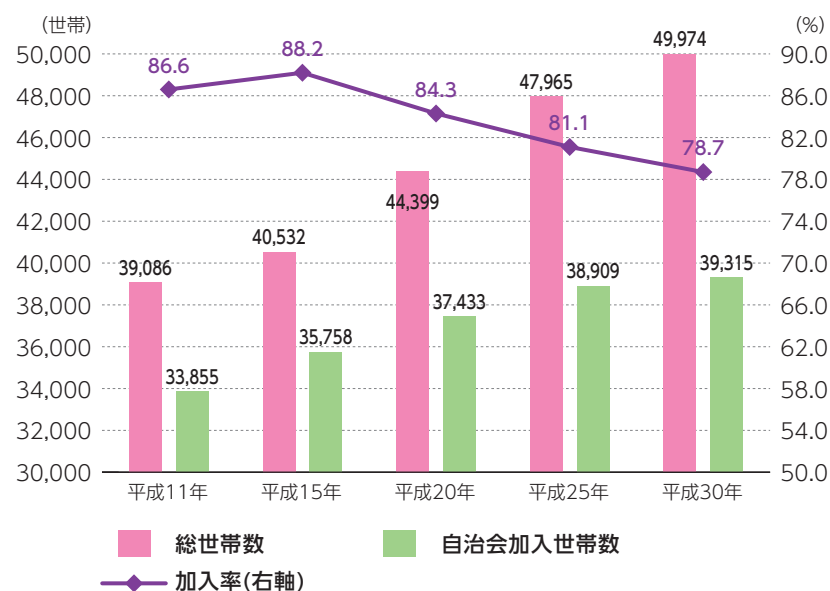
人口の将来予測



急速に高齢化が進行する状況であり2040年には65歳以上人口が35.5%に達する見通しであり、本市の人口構成が大きく変わりつつあります。

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口(2018年推計)を踏まえて生駒市人口ビジョン推計を見直した市独自推計[年齢別人口構成]

自治会加入率の推移



生駒市の総世帯数は増加傾向にあります。自治会の加入世帯数は横ばいです。自治会加入率が減少し、地域コミュニティの姿が変わりつつあることから、地域コミュニティと行政のかかわり方も見直していく必要があります。

(出所) 生駒市資料

生駒市の

未来

これまでの地域コミュニティに加えて、SNS等で様々な「緩やかなつながり」ができ、新たな発想が生まれ、仲間とともにアイデアを実現していきます。



SNSで気のあう仲間を見つけた市民が会うことに...



秋のマルシェに協力して出店することに...



都市のあり方の変化

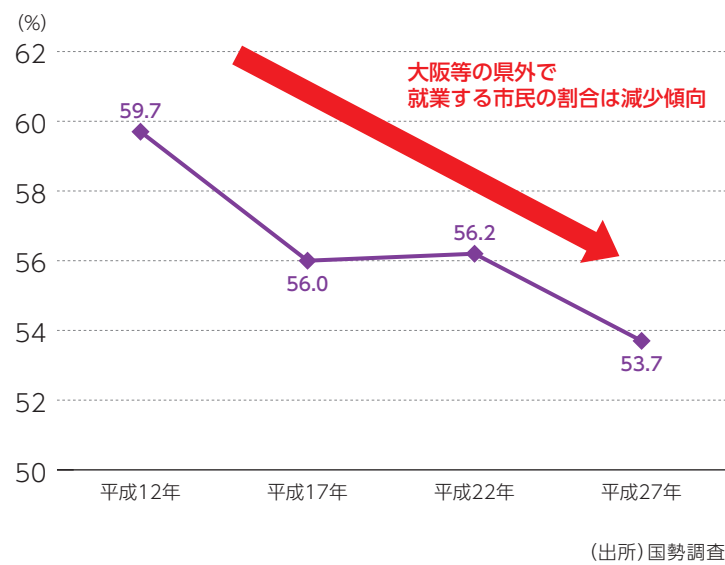
生駒市の



都市のあり方については、ライフスタイルやコミュニティの変化に伴って、「自宅と職場を結ぶ」動線を中心としたこれまでのベッドタウン型の都市からの転換が求められます。

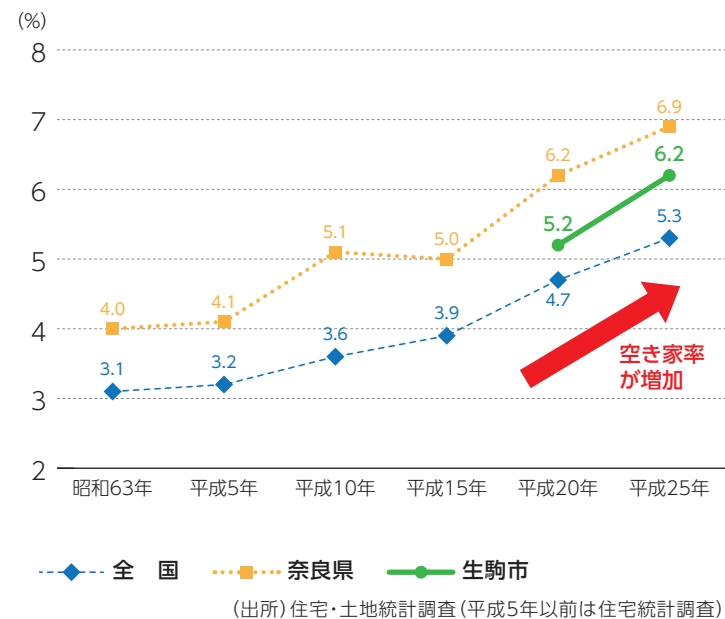
そのために、市内の様々な場所で互いに交流できる場があり、その場同士を結ぶネットワークが整備されたコンパクトなまちづくりを進めます。その上で、高齢化や人口減少、外国人観光客の増加を受けて、多様な人々にとって利用しやすい、暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

県外就業者割合の推移



生駒で住み、大阪等の都市圏で働くスタイルをとる人が減少してきており、徐々に「ベッドタウン」ではなくなってきています。

生駒市の空き家率の推移

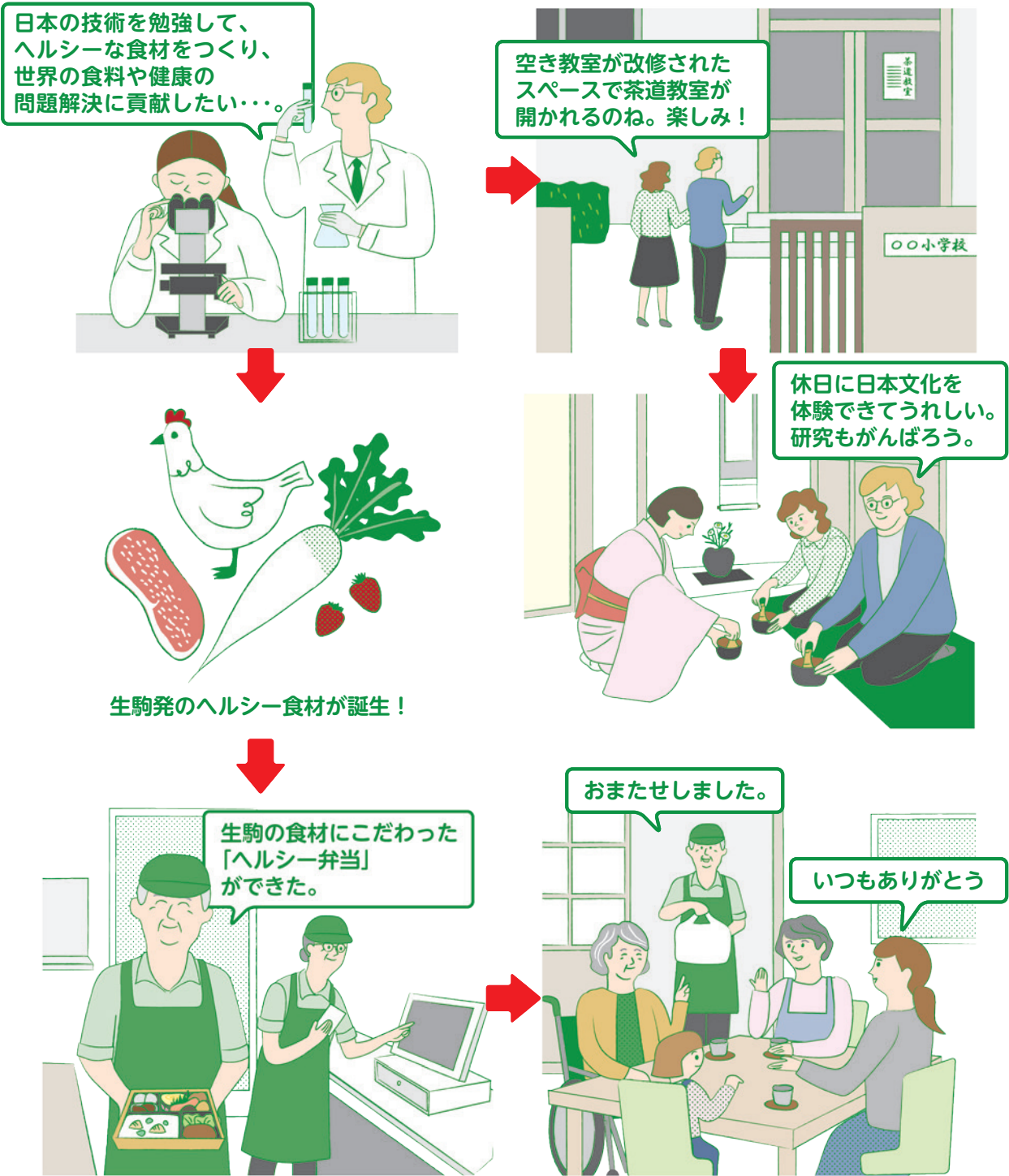


空き家は今後も増加傾向にあり、防災、防犯、衛生上適切な維持管理が必要です。また、地域の交流拠点など、多様な用途で活用されることも期待されます。

生駒市の



様々な人が未来の生駒で暮らし、活動しています。交流の場ができることで緩やかにつながり、それぞれの輝く人生をかなえていきます。



研究機関で生駒発のヘルシー食材が開発されました。定年後、公共的な建物の空きスペースを転用した起業スペースで、お弁当屋さんを起業したシニアが、「ヘルシー弁当」として商品化し、それが空き家を改修した誰もが集える「交流サロン」に届きます。また、歩いて行ける身近なところ（例えば小学校の空き教室を改修したスペース）で茶道教室等の催しが開かれます。



生駒市